

(2) 高齢者の学習活動

ア 生涯学習を行っている高齢者は5割以上、内容は「健康・スポーツ」、「趣味的なもの」

高齢者の生涯学習への参加状況についてみると、この1年くらいの間に生涯学習をしたことのある人は、60代以上で5割以上であった。内容は、「健康・スポーツ」が60代で31.7%、70歳以上で28.8%と最も多かった（図1-2-5-4）。

イ 生涯学習を行っていない理由は、60代では「仕事」

生涯学習を行っていない理由をみると、60

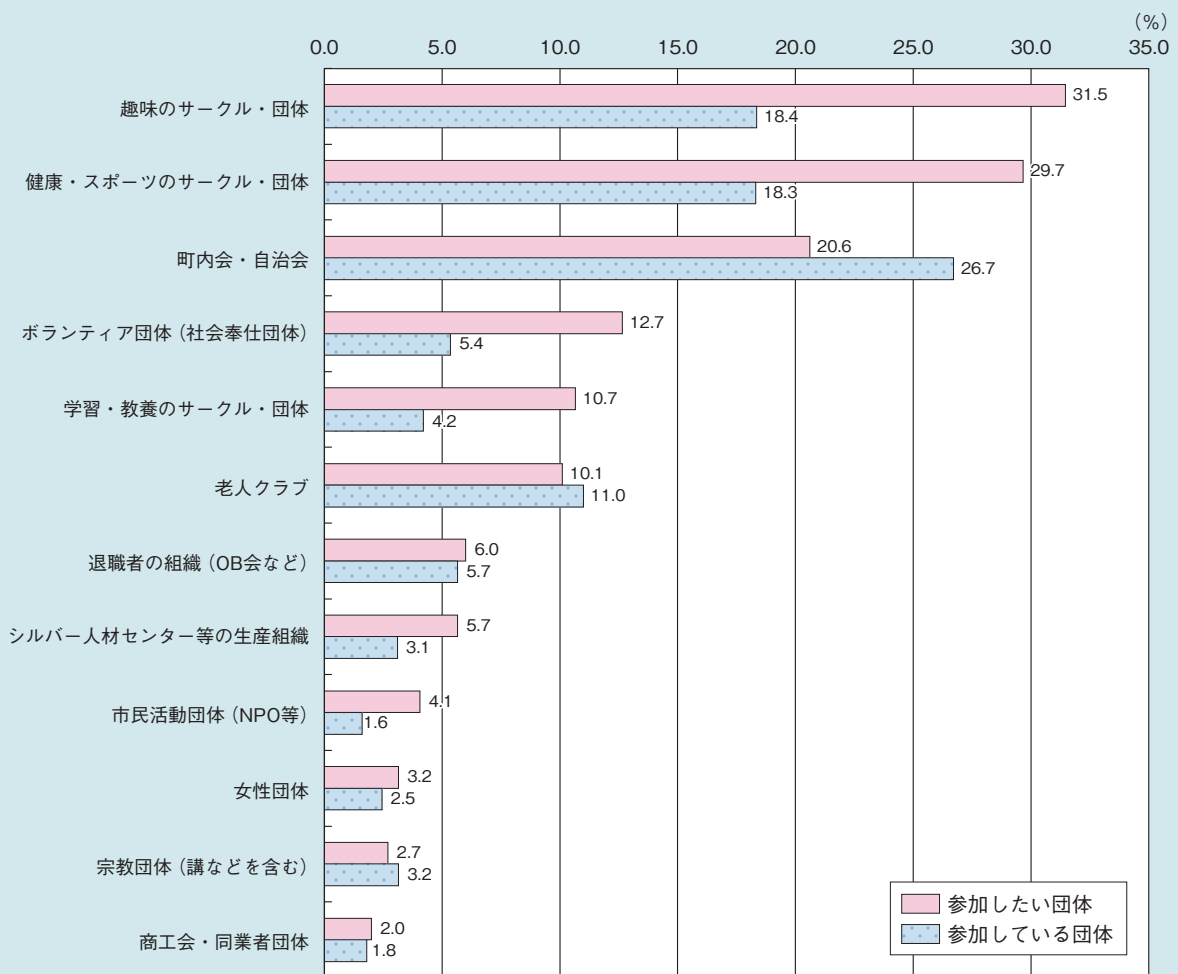
代では「仕事が忙しくて時間がない」（40.8%）が最も多く、次いで「きっかけがつかめない」（20.9%）となっている。70歳以上では「特に必要がない」（19.8%）が最も多い（図1-2-5-5）。

(3) 高齢者の世代間交流

ア 約6割の高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えている

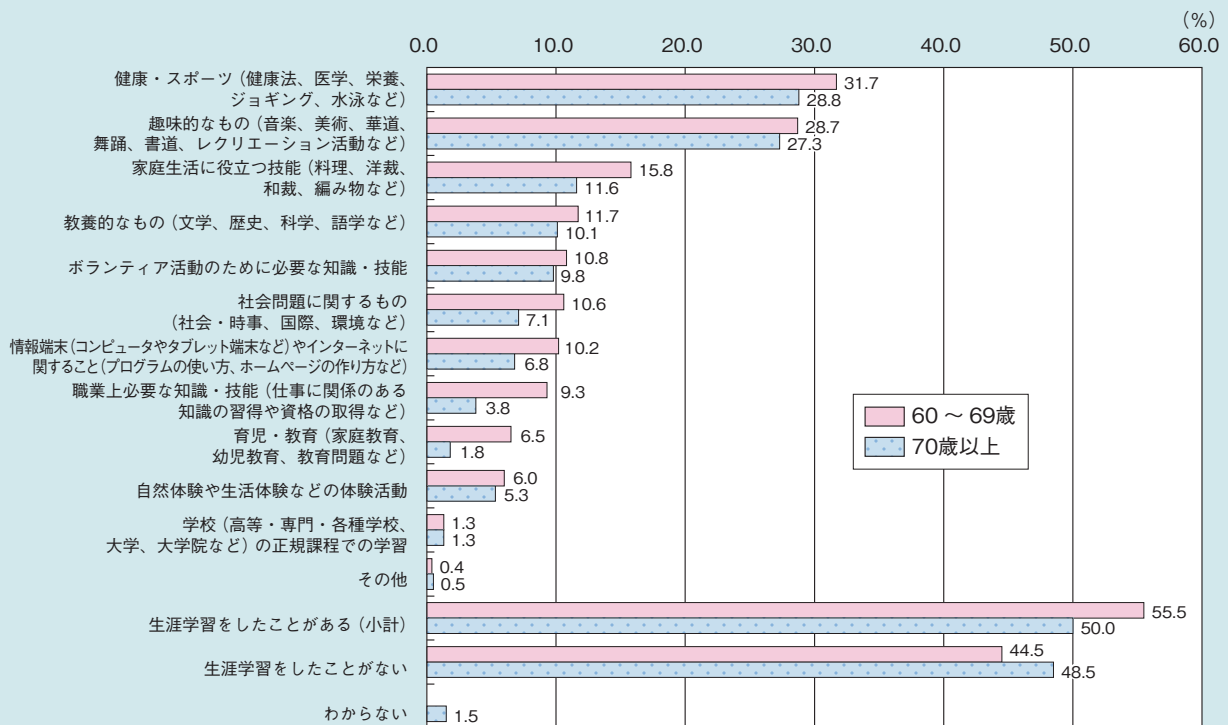
高齢者の若い世代との交流の機会への参加意向についてみると、参加したいと考える人の割合（「積極的に参加したい」、「できるかぎり参加したい」と回答した人の合計）は平成25

図1-2-5-3 参加したい団体と参加している団体（複数回答）



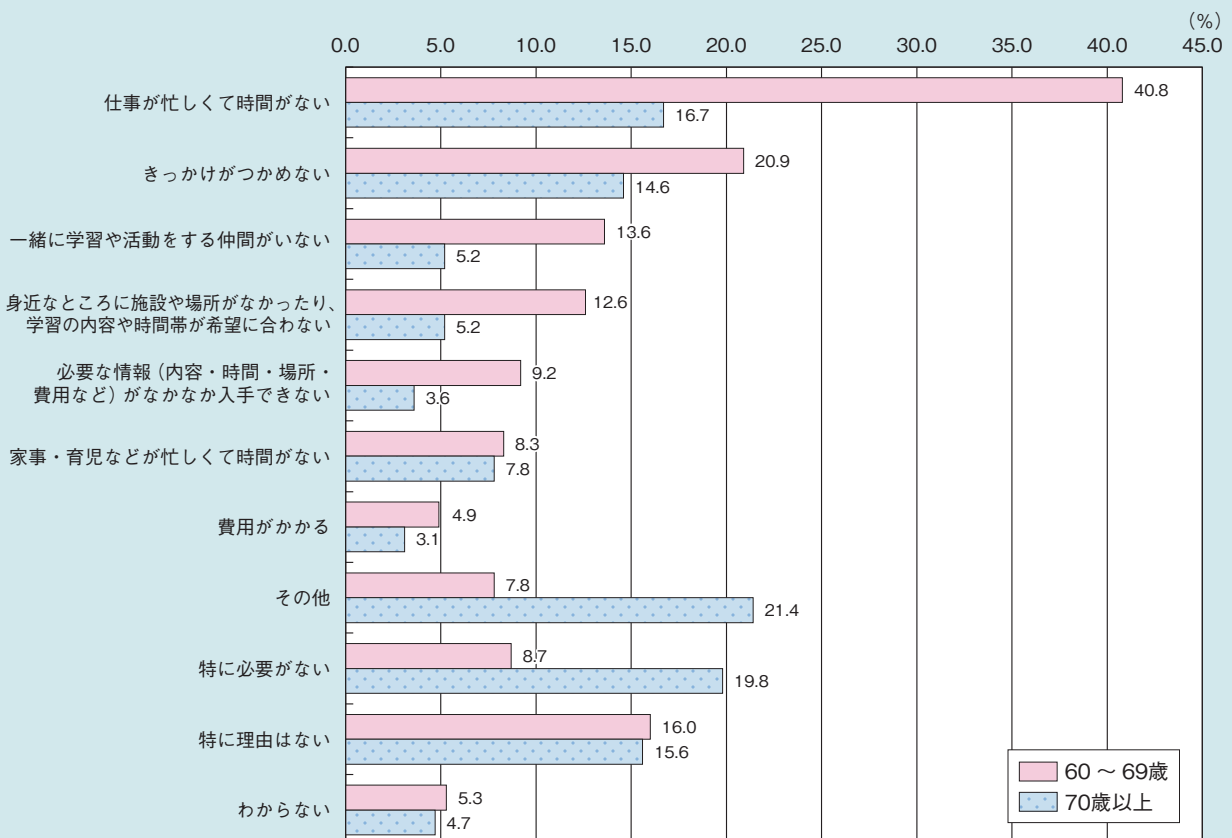
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女
 (注2) 「その他」や「参加したくない」などの回答を除く

図1-2-5-4 高齢者が行っている生涯学習（複数回答）



資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成24年）
 （注）調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者だが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

図1-2-5-5 高齢者が生涯学習を行っていない理由（複数回答）



資料：内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成24年）
 （注）調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者だが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

(2013) 年で59.9%となっており、10年前（15（2003）年）に比べると7.2ポイント増加している（図1-2-5-6）。

イ 世代間交流を促進するための必要条件は「交流機会の設定」

高齢者が世代間の交流を促進するために必要だと思うことをみると、「交流機会の設定」（31.7%）が最も多く、次いで「高齢者が参加しやすくなるための交通機関の整備など」（28.9%）となっている（図1-2-5-7）。

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

ア 高齢者の8割は現在の住居に満足しており、体が弱っても自宅に留まりたい人が多い

60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で76.3%、持家で79.1%、賃貸住宅で56.6%となっている（図1-2-6-1）。

さらに、現在住んでいる住宅について不満な点は、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が63.8%、以下、「住宅の構造や設備が使いにくい」が32.2%、「家賃、税金、住宅維持費等の経済的負担が重い」が24.8%となっている。

60歳以上の高齢者に身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみると、「自宅に留まりたい」（「現在のまま、自宅に留まりたい」と「改築の上、自宅に留まりたい」の合計）とする人が日本では約3分の2となっているが、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較すると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している（図1-2-6-2）。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

国民生活センターに医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から提供された事故情報によ

図1-2-5-6 若い世代との交流の機会の参加意向

